

| 授業科目 | 科目概要・形式 | 配当年次 | オンライン参加 |
|---|---|-------------------|--------------------------------|
| がん看護学実習Ⅳ | 2単位 90 時間 実習科目 | 博士前期 2 年次 通年開講 | 可・ <input type="checkbox"/> 不可 |
| 科目責任者 | 鳴井 ひろみ | | |
| 担当者 | 鳴井 ひろみ、平山 泰生 (非常勤)、三原 大佳 (非常勤)、町野 孝幸 (非常勤)、大串 祐美子 (非常勤)、二井矢 ひとみ (非常勤)、納谷 さくら (非常勤)、本間 ともみ | | |
| 1. 科目のねらい・目標 | | | |
| <p>がんの診断・治療過程を理解し、がん治療および緩和ケアを受けるがん患者の身体的管理方法と治療遂行に必要な看護援助を提供するための卓越した臨床判断能力や直接ケアを行う能力を修得する。また、在宅療養に移行するがん患者・家族に対する地域連携を理解し、医療施設から地域への円滑な連携を実現するためのがん看護専門看護師としての役割について探求する。</p> | | | |
| 2. 授業計画・内容 | | | |
| <p><実習内容></p> | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1) がん看護学実習Ⅲでの学びを基盤として、がん治療および緩和ケアを受けるがん患者を受け持ち、包括的アセスメントを行い、ケアとキュアを統合させた身体管理・症状緩和・治療遂行のためのケア計画をエビデンスに基づき立案し、患者の治療・療養過程を管理し、卓越したケアを提供し、評価する。 2) 受け持ち患者に行った身体・治療管理および療養支援の事例をまとめ、看護師（がん看護専門看護師）および医師（臨床指導医）の視点からそれぞれ指導を受け事例を分析し、ケアとキュアを統合した身体・治療管理および療養支援に関するレポートを作成する。ケアとキュアの統合による高度な看護実践を行うがん看護専門看護師としての役割について検討する。 3) がん看護専門看護師または訪問看護師とともに、在宅療養中の患者・家族の療養生活の支援に同行し、地域連携の実際について学ぶ。また、療養上の問題を抱えながら退院するがん患者・家族の退院調整および医療施設から地域への円滑な移行を行う上での地域医療連携の実際から、多職種との連携・協働のあり方を検討する。さらに、他機関や多職種との連携の実際についての学びをもとに、医療施設から地域への円滑な移行を行うためのチーム医療におけるがん看護専門看護師の役割について検討する。 <p><実習場所> 東札幌病院</p> <p><実習指導体制></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 教員は実習指導者（がん看護専門看護師・臨床指導医）と連携して、実習記録およびケースカンファレンス内容について指導する。 2) 教員は、受け持ち患者の主治医、実習調整担当者、実習病棟看護責任者、実習指導者（がん看護専門看護師・臨床指導医）と連携し、学生の教育環境を調整する。 3) 実習指導者（がん看護専門看護師）は、学生が行う受け持ち患者への身体・治療管理および療養支援の過程における高度な看護実践の提供について助言・指導する。 4) 実習指導者（がん看護専門看護師）は、訪問看護師および地域医療連携に関わる多職種と連携し、カンファレンスおよびディスカッション内容について指導する。 5) 教員および実習指導者（がん看護専門看護師・臨床指導医）は、受け持ち患者の事例分析の過程およびケースカンファレンス内容をスーパーバイズする。 | | | |
| 3. 教科書、参考書 | | | |
| 指定しない。実習状況によって随時、提示する。学内での既習事項を各自で効果的に活用すること。 | | | |
| 4. 成績評価方法 | | | |

実習目標の達成度 (65%)、実習への取り組み状況 (5%)、ケアとキュアを統合した高度看護実践に関するケースレポートおよび地域連携におけるがん看護専門看護師の役割に関するケースレポート (30%) を総合して評価する。

5. 受講要件

がん看護専門看護師コースの学生は必修

6. 社会人学生に対する配慮

相談があれば個別に対応する。

7. その他

- ・既習事項を活用して事前学習を十分に行い、主体的に実習に臨むこと。
- ・状況に応じて Webex meeting または Zoom を用いた遠隔カンファレンスを実施する。